

関連項目：教育活動プラン②

「いいところ見つけカード」を活用して、承認の機会を増やす

目的

アンケート等の結果から、本校は自己肯定感をもちにくい児童が多くいるということが明らかになりました。そこで、友だちのよいところを見つける活動をすることで自分の良さにも気づけるようになり、自己肯定感が育つと考え、取り組むことにしました。

内容

● 「友だちのいいところ見つけカード」の取組

(1) 実施時間及び方法

- ・帰りの会に、書くための時間を位置づけました。
- ・学級によっては、用紙を多めに用意しておき、いつでも書けるようにする方法もとりました。ただし、この場合は児童の意識が低下しないように、教師の声かけや何人のいいところを見つけたかを帰りの会で問うなどして、意識づけを図りました。また、給食中の校内放送で、教師がカードの内容を紹介したことで、いいところをたくさん見つけようという意欲が高まりました。

(2) 内容

一日の中で、見たことや聞いたことなど、友だちのよさを認める内容にしました。

- ・〇〇さんが、ごみを拾っていた。
- ・〇〇さんが、友だちを遊びにさそっていた。
- ・「ありがとう」と言われて、気持ちがよかった。



● カードの改善

11月の取組みに引き続き、人権月間の活動の一環として、12月も継続して取り組みました。11月は、自分が見つけた人のよいところを見つけカードに書いていく方法を探りました。しかし、多く書かれる児童と、そうでない児童が出るなど偏ってしまうという弊害も出てきました。

そこで、12月の生活目標「もっともっと仲良くなろう」に合わせて、朝登校した後に、友だちが特定できるようなカードを用意しておき、自分が引いた相手のいいところを見つけ、カードに書いていくという方法を探ってみました。そうすることで偏りがなく、しかも親しくなかった相手でも「いいところを見つけなくては・・・。」という気持ちの高まりをねらい、実践を続けてきました。



成果

児童は、毎朝登校すると「今日はだれのカードをひくのかな・・・。」と楽しみにするようになりました。相手が決まったら、昼休みに遊びに誘ったり、掃除の様子を観察したりして、友だちのいいところを進んで見つけようとする児童が多く見られました。また、教師も同様にくじを引き、いいところを見つけることで、児童のよさを再認識できるという成果もありました。